

支部だより

伊賀良

伊賀良支部では、62年度総会を例年通りお盆の十五日に料亭小館で開催した。総会と同時にこのところ数年続いている同窓生による講演会を、今年は中学35回卒業、主として東京に於て教職生活五十年の熊谷茂さんにお願いして開いた。「歴史の裏話」という題で、「そのカラクリが判れば單なる文字の配列で神秘性など全くなく、迷信と結びついて人の生活を乱しているのは、迷惑至極である」とゆう内容であった。

会員だより

全校行軍

八月は同期会の多い月で、本年も同期会に招待され、其の折、思い出話の中に全校行軍がしばしば出る。上級生は鉄砲を担ぎ、一、二年生は唯歩くだけの行軍であった。

一年生とは、今の中学生義だとPTAのお母さん方よりは一言の反対もなく、学校の生徒のお母さん方と考えられたのは恩師北原寛先生であった。私は昭和十二年五月に静岡より母校に戻ること

度、総会を例年通りお盆の十五日に料亭小館で開催した。総会と同時にこのところ数年続いている同窓生による講演会を、今年は中学35回卒業、主として東京に於て教職生活五十年の熊谷茂さんにお願いして開いた。「歴史の裏話」という題で、「そのカラクリが判れば單なる文字の配列で神秘性など全くなく、迷信と結びついて人の生活を乱しているのは、迷惑至極である」とゆう内容であった。

以上の通り会は有意義に終ったが、集まるメンバーに幾分片寄りが出来たことが気がかりで、何とかしなくてはと考えている。

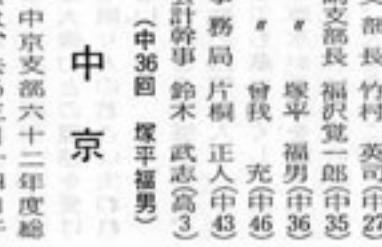
(幹事長 繁田昭夫)



伊賀良支部では、62年度総会を例年通りお盆の十五日に料亭小館で開催した。総会と同時にこのところ数年続いている同窓生による講演会を、今年は中学35回卒業、主として東京に於て教職生活五十年の熊谷茂さんにお願いして開いた。「歴史の裏話」という題で、「そのカラクリが判れば單なる文字の配列で神秘性など全くなく、迷信と結びついて人の生活を乱しているのは、迷惑至極である」とゆう内容であった。

以上の通り会は有意義に終ったが、集まるメンバーに幾分片寄りが出来たことが気がかりで、何とかしなくてはと考えている。

(幹事長 繁田昭夫)

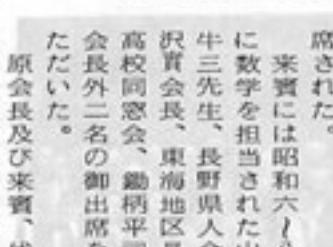


中京

(中36回 塚平福男)

伊賀良支部では、62年度総会を例年通りお盆の十五日に料亭小館で開催した。総会と同時にこのところ数年続いている同窓生による講演会を、今年は中学35回卒業、主として東京に於て教職生活五十年の熊谷茂さんにお願いして開いた。「歴史の裏話」という題で、「そのカラクリが判れば單なる文字の配列で神秘性など全くなく、迷信と結びついて人の生活を乱しているのは、迷惑至極である」とゆう内容であった。

以上の通り会は有意義に終ったが、集まるメンバーに幾分片寄りが出来たことが気がかりで、何とかしなくてはと考えている。



原会員及び来賓、代表幹事挨拶、会計報告、C

B C 朝比久雄氏の名司会

会長外二名の御出席をいたしました。

原会員及び来賓、代表幹事挨拶、会計報告、C

B C 朝比久雄氏の名司会

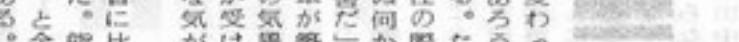
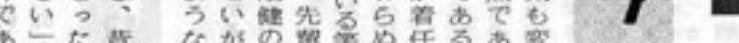
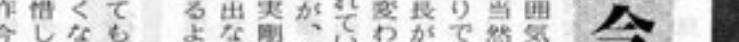
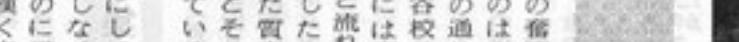
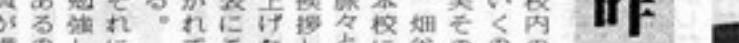
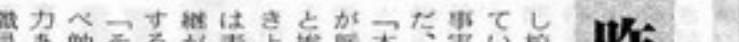
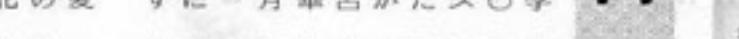
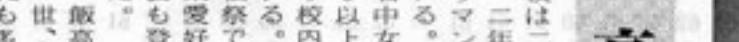
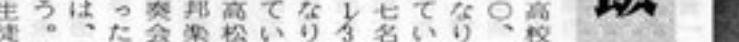
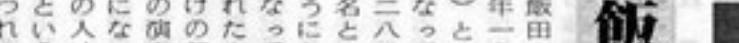
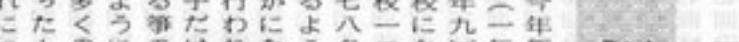
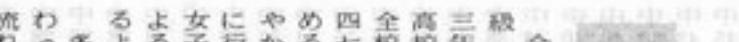
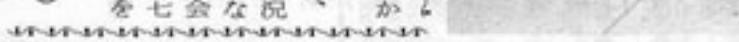
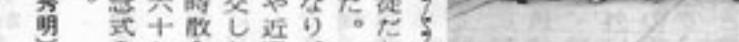
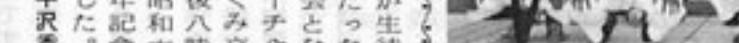
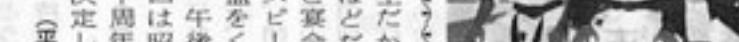
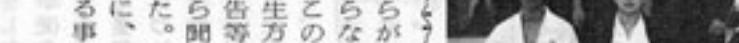
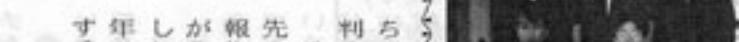
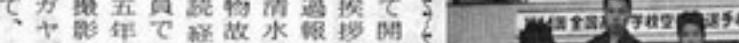
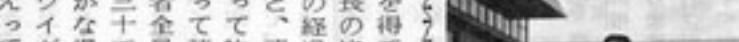
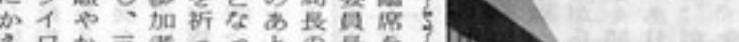
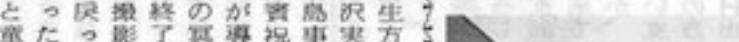
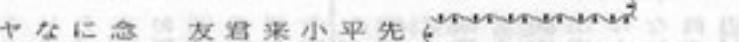
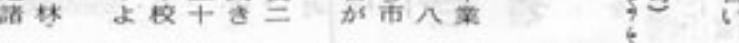
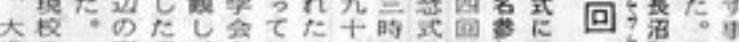
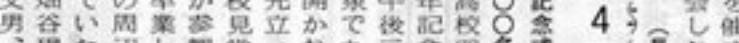
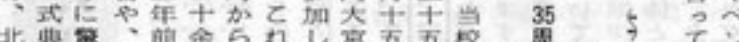
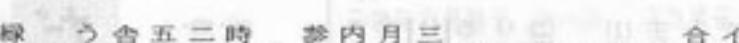
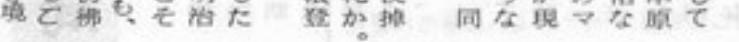
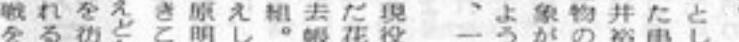
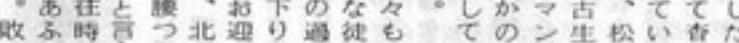
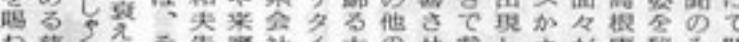
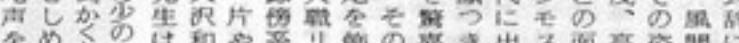
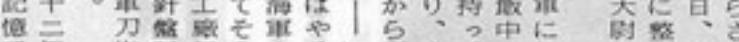
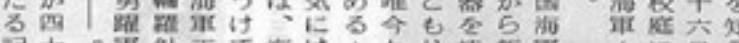
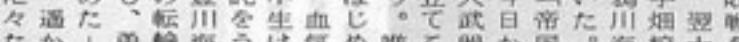
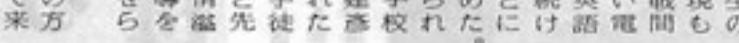
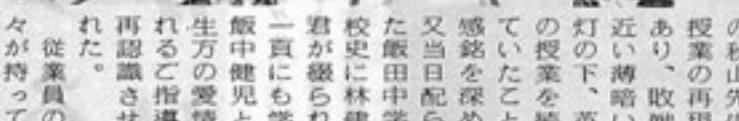
中 46 回

四十二年ぶり

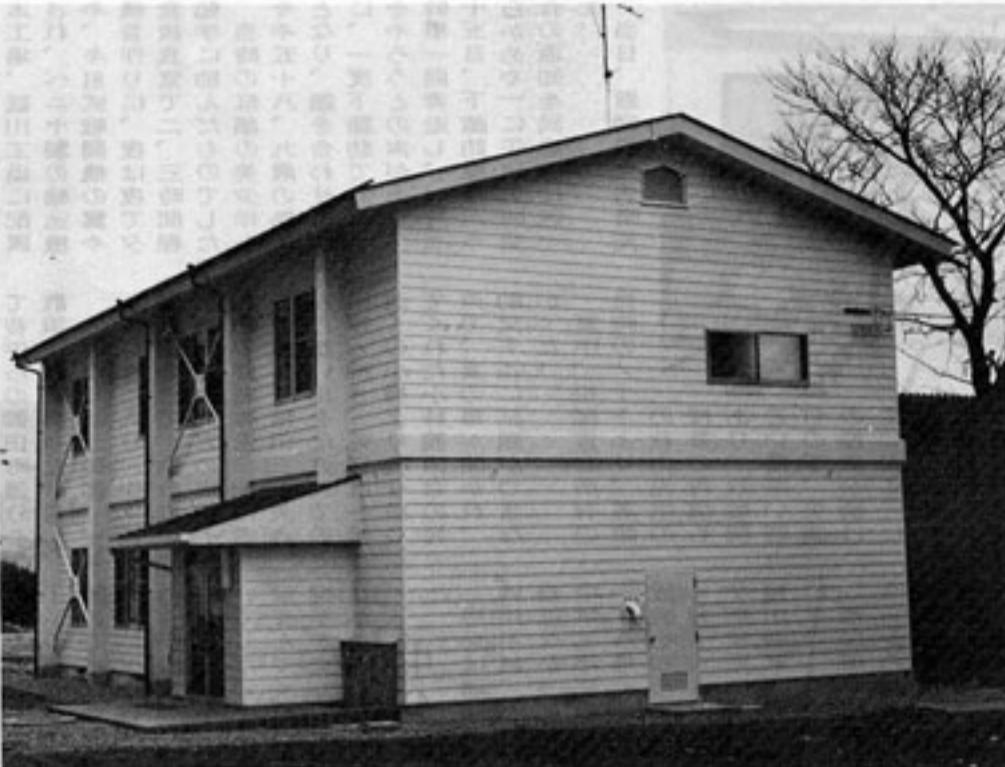
下諏訪での同窓会

我々四十六回生は、昭和二十年の正月、例の名物校長横内秀雄先生、右手を後ろに組んでの得意のポーズで「諸君に名前ある勤員令が下ったのである」との一声で飯田駅頭を出発、諏訪航空下諏訪工場に向った。同勢一十五日終戦を迎えるまで本工場、砥川工場に配属され、ベニヤ製の輸送機や、キ81式戦闘機の翼や機首作りに、夜は夜で夕食後食堂で二、三時間程度で、一度下諏訪で同窓会をやろうとの声が上り、幹事一同奔走し、七月二十五日、下諏訪温泉「うらかめや」に午後五時集合の通知を同級生に送った。

当日、恩師松島秀晴先生の秋山先生の授業の再現もあり、敗戦間近い薄暗い電灯の下、英語の授業を続けていたことには感銘を深めた。又当日配られた飯田中学校史に林建彦君が綴られた一頁にも学徒飯中健児と先生方の愛情溢れるご指導を再認識させられた。従業員の方々が持つて来た



寄贈品紹介



改革後の会員登録

卒業生進路情況

昭和61年度卒業生総数は、397名(内女子136名)、うち進学者は184名

浪人188名、就職23名でした。新入試元年ともいわれた今春の国公立大学入試は混乱の中で一段落しました。浪人の活躍が目立ちましたが、現役にとっても厳しい入試でした。

高4回福沢保61
手町長姫高本館の本造りの建築図面が当時の
大工棟梁松川町生田元理議長北林行孝さん宅より
見つかったと地元紙にのった。これは旧校舎を研究している前長姫高建築科主任、宮内宏幸さんによると、いずれも貴重な資料で「各地をくまなくさがしたが、見つからなかかった」とい、飯田中学校、長姫高の歴史の一ページをひもどく手がかりとなる。北林さんの相手要太郎さんは当地方の大きな建築物を手がけていた。正面には「飯田中学校教室平岡及小屋伏之圖」と「飯田中学生徒寄宿平面及小屋伏之圖」と明治三十五年と記されおり、現場での計算された数字や「北林」の朱印も二ヶ所にわざっていた。

貌する 我が母校

事務局だより

ことに裏はしい次第で
ります。会員相互の親
を、益々深めると共に

チをしたらどうですか
幸便をお待ち致して
います。

会員計

報

中 中 中
28 28 27
回 回 回
宮 吉 関
下 田 村
悟 英 寛
一 夫 宽
61 57 62
8 6 2

高5回和泉秋男
高4回福沢 保
62 61
1 6
1 19

中飯(長崎)

1

旧飯中(長崎)

1